

よくわかる
日本美術史

社会と芸術表現

講師 京都嵯峨芸術大学教授 佐々木正子



様々な芸術表現の登場は、当時の政治を含む社会の在り方や考え方、あるいは興味の向かう方向に大きく影響を受けています。天平時代の雅楽の調べと現代音楽の刺激的なサウンドでは大きくかけ離れているように、時代性、美意識、美の享受層、価値観の変化は、大きく芸術表現を変化させます。絵画芸術の作風変化の影には、どのような社会変化があり、創作者は社会とどのように対応していたのでしょうか。今回は時代背景にスポットを当てた歴史的考察を主にお話します。

10月27日 禅の思想と美術への影響

禅では瞑想によって悟りへの道を求めるが、悟りとは、ものの道理や本質を哲学的に理解することを意味する。その様な意味において、禅は学術的視線を常に内包しているとも言える。虚飾や無駄をそぎ落とした後に残るものこそが本質であり、その思想の影響を受けた絵画は色を捨て、墨という一度筆を下ろしたらやり直しの出来ない厳しい表現を求め、水墨画の発展が見られた。一方で、臨済禅の思想から、命の尊さを理解して、その輝きを描こうと極彩色の若冲のような表現も生れた。また禅は本質を求めるが故に、庭園の造成などにもデザインとも言えるまでに抽象化された形態が使用されることもあった。禅の思想の美術への影響を追う。

11月24日 キリスト教美術の受容

安土桃山期には金地の障壁画が登場する。禁教令が公布される前の日本では、九州、近畿を中心として積極的な外国文化への学習熱が高まり、キリシタンとなる大名もいた。彼らの城は金碧障壁画をいち早く取り入れたものであった。小さな金地テンペラの聖像画から、城郭の大障壁画へと発展させた御用絵師の力と、禁教令の中、キリスト教を隠したままに絵制作まで、当時の社会と作品の関係をキリスト教宣教師の残した文献を元に考察する。

12月22日 「格物究理」の思想と芸術表現の変化

江戸時代には武家社会の現実を直視する合理性に富んだ気風と、豊かになった町人層の好奇心から、真実を追究する学術的姿勢が明確になる。この姿勢を受けて流行したのが「格物究理」の思想で、総てのものの真実の姿を把握しようと願ったため、絵画に「写生」が生み出された。幕府は写生の中でも「真写」を用いて各地の物産帳の作成に当たったが、絵画が美のためだけでなく学術の一端を担う事になり、結果的には美術上にも客観性のある写生画が流行することに繋がった。また風俗図のジャンルでは、夢想的な理想化された世界ではなく、現実のありのままの人間や生活の状況を写すという、写生ではないが現実性に目を向けた画題の扱い方が発展したことを比較のために見ていく。創作における意識変革にスポットを当てる。

いずれも第4金曜日 15:30~17:00

受講料 各回3,400円 3回通し 10,000円

会場

IMY (アイエムワイ) ビル会議室
461-0004
愛知県名古屋市東区葵 3-7-14
地下鉄東山線「千種」駅①番出口、桜通線「車道」駅③出口徒歩2分、JR「千種」駅徒歩5分(メルパルク北隣)

お申し込み・お問い合わせは



創企舎 ソフィ

460-0007 名古屋市中区新栄 2-6-13
Tel/Fax 052-684-5894 (直通 090-8474-6363)
Email : soukisha-sophy@gd5.so-net.ne.jp
URL : <http://s-sophy.com>

創企舎ソフィ

検索

お申込みは、ご予約のうえ下記口座にお振込み下さい。
三菱東京UFJ銀行 栄町支店
普通0160603 口座名義:創企舎ソフィー
※または当日ご持参下さい。

